

令和元年度 全国学力・学習状況調査 結果報告書

令和元年8月29日

平成31年4月に第6学年の児童を対象に実施した「令和元年度全国学力・学習状況調査の結果の概要」が北海道教育委員会から送付されました。その資料をもとに、本校の調査結果を分析し、成果と課題、改善策を明らかにしましたので、お知らせします。

今回の学力調査は、平成29年3月に公示された小学校学習指導要領を踏まえ、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という三つの柱に基づいて再整理されており、これらの資質・能力の三つの柱は相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っています。

今年度の調査問題では、こうした新学習指導要領の考え方への理解を促すため、従来の「主として『知識』に関するA問題」と「主として『活用』に関するB問題」に区分するといった整理を見直して、一体的に調査問題が構成されています。

国語と算数の調査結果については、どの程度の学力があるかを見取る一つの手立てであり、児童一人一人の学力の全体像を捉えたわけではありません。また、質問紙調査の結果からは、児童の学習や生活の実態が見えてきています。

今回の調査で捉えられた傾向を参考にし、本校の児童一人一人の学習指導に役立てていきたいと思っております。



旭川市立東栄小学校

1 国語の分析と指導の改善策

(1) 分析 (◎成果 ▲課題)

○総括的な結果からは、学習指導要領に示されている3領域1事項(「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕)において、正答率が70%ということから「おおむね成果」を見取ることができ、多くの児童が基礎的・基本的な知識を身に付けつつ、その知識を活用することができている。

◎特に成果がみられたのは、**2**《疑問に思ったことを調べ、紹介し合う》(「食べ物の保存」)の**1**「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むことができるかどうかをみる」【第5学年及び第6学年】問題は、正答率が100%であり、登場人物の『知りたいこと』の内容を捉え、『目次の一部』を活用し、必要な情報を得るために適切なページを選ぶことができている。

◎**3**《地域で活躍する人を紹介する》(「豊職人へのインタビュー」)の一「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすることができるかどうかをみる」【第5学年及び第6学年】問題は、正答率が95%であり、「豊の魅力」と「自分の理解が正しいかどうかを確認」という質問の意図を捉えることができている。

◎**3**《地域で活躍する人を紹介する》(「豊職人へのインタビュー」)の**4**「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる」【第3学年及び第4学年】問題は、正答率が95%であり、「習うより慣れよ」を文の中で適切に使うことができている。

▲特に課題がみられたのは、**1**《調べたことを報告する文章を書く》(「公衆電話」)の**4**(1)ウ「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」【第5学年及び第6学年】問題は、正答率が13%であり、「報告する文章」を書き終えて、読み返した際に、習っている漢字が平仮名になっていたことに気が付き、漢字に直しているということを十分に読み取ることができていないといえる。そのため、「しん」を「心」と正しく書くことはできているが、「かん」を「感」と書き、同音異義語である「感心」と書いている児童が多かった。

△**1**《調べたことを報告する文章を書く》(「公衆電話」)の**4**(2)「文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができるかどうかをみる」【第3学年及び第4学年】問題は、正答率が41%であり、文脈に沿って接続語『そこで』の働きを正しく理解し、意味のつながりや文末表現を考えて、二分に分けて書き直せない児童が多かった。

▲**3**《地域で活躍する人を紹介する》(「豊職人へのインタビュー」)の**3**「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」【第5学年及び第6学年】問題は、正答率が28%であり、問題文の3つの条件を満たしていない児童が多かった。特に30字以上、60字以内という文字制限が満たされていなかった。

(2) 改善策

- 漢字には同音異義語が多数あるため、単に漢字を繰り返し書いて覚えるだけでなく、文中で使うことができるように、日常的な各教科の振り返りの場面や作文を書く場面などで、習った漢字を意識して用いることができるように指導する。
- 指定した言葉や文を利用させたり、時数制限を設定したりするなどして、解答条件を満たした内容の文を書くことができるように指導する。

2 算数の分析と指導の改善策

(1) 分析 (◎成果 ▲課題)

○総括的な結果からは、学習指導要領に示されている4領域(「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」)において、正答率が70%ということから「おおむね成果」を見取ることができ、多くの児童が言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりすることができている。

今年度の調査問題では、3種類の記述内容に関わる問題が出題されている。

(1)「事実を記述する問題」【対応設問:①(3), ③(2)】

(2)「方法を記述する問題」【対応設問:④(3)】

(3)「理由を記述する問題」【対応設問:②(3)】

◎特に成果がみられたのは、①(1)「台形について理解しているかどうかをみる」【第4学年】問題は、正答率が97%であり、多くの児童が「向かい合った一組の辺が平行な四角形を台形」という基礎的な知識を習得することができている。

◎②(1)「棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができるかどうかをみる」【第3学年】問題は、正答率が92%であり、多くの児童が棒グラフから、「資料の特徴や傾向を読み取る」という基礎的な知識を習得することができている。

◎②(4)「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができるかをみる」【第4学年】問題は、正答率が87%であり、多くの児童が「加法と乗法の混合した整数と小数の計算」という基礎的な知識を習得することができている。

▲特に課題がみられたのは、①(3)「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を言葉や数を用いて記述できるかをみる」【第5学年】問題は、正答率が36%であり、多くの児童が「長方形の面積であることと、三角形の面積であることは書いてあるが、説明する対象が明確でなかったり、対象を誤って書いていたりする」という傾向がみられた。

△③(4)「示された除法の式の意味を理解しているかどうかをみる」【第3学年・第5学年】問題は、正答率が46%であり、半数の児童が「 $180 \div 0.6$ の除数の0.6に着目して、0.6m分の代金を求めていると誤って捉えている」と見取ることができる。

△②(3)「二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」【第3学年・第5学年】問題は、正答率が49%であり、半数の児童が「市全体の水の使用量が変わらないことと、市の人口は増えていることは記述できており、一人当たりの水の使用量の増減を判断することもできているが、一人当たりの水の使用量が(市全体の水の使用量)÷(市の人口)で求めることができること」を記述することができていなかった。

(2) 改善策

- 図形の学習では、図形の性質や構成要素に着目し、観察や構成などの学習活動を通して図形についての実感的な理解を深めたり、図形の構成の仕方や軽量の仕方について筋道を立てて考察したりすることができるように指導する。
- 日常生活において、目的に応じて、必要な資料を収集し、資料の特徴や傾向に着目して事象を考察し、判断する学習活動を充実させる。また、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からでは判断できない事柄についても判断することができるように指導する。

3 児童質問紙調査の結果

(1) 分析 (◎成果 ▲課題)

【生活習慣】

◎「朝食を毎日食べている」、「毎日、同じぐらいの時刻に『寝ている』、『起きている』」などの質問において、91%以上の肯定的な回答を示しており、家庭生活のリズムが安定していて、保護者の意識が高い状況です。

【自尊意識】

◎「自分にはよいところがある」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」、「ものごとを最後までやり遂げて、嬉しかったことがある」などの質問において、95%以上の肯定的な回答を示しており、児童が自分の役割に責任をもって取り組むことができたり、教員が児童のよい行為に対して励ます声かけをすることができたりするなどして、児童のモチベーションを高く維持する実践ができている状況です。

【規範意識】

◎「学校のきまりを守っている」、「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」などの質問において、98%以上の肯定的な回答を示しており、約束事を守る意識が高い状況です。

【学習・読書習慣・新聞】

◎「家で自分で計画を立てて勉強していますか」、「1日にどれぐらいの時間、勉強していますか」などの質問において、87%の肯定的な回答を示しており、学校で取り組んでいる家庭学習「学年×10+10分」が定着している状況です。

▲「読書は好きですか」の質問に74%の肯定的な回答を示している一方で、「1日当たりの読書の時間」、「学校図書館や地域の図書館を利用する」などの質問には、20%以下の回答を示しており、読書に親しむことができる工夫が必要です。

▲「新聞を読んでいますか」の質問には21%の回答であり、テレビニュースやスマホなどのメディアからの情報を得ている傾向や家庭の新聞購読が減っている状況が伺われます。

【授業全般】

▲「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」という質問において、26%の回答であり、指導者のスキルアップが必要です。

(2) 改善策

【読書習慣・新聞】

□各学年の発達段階に応じた「必読書」の選定や、各家庭でのメディア接触の時間を30分減らす「上川スライド30」などの実践を啓発するなど、学校でできることと家庭に協力していただくことの両面から取り組む必要がある。

□教員が自作の新聞を利用した教材づくりや学校に配布される児童用の各種新聞を利用するなど、あるものを有効活用して新聞を読むことに親しむことができる指導をする。

【授業全般】

□授業の振り返り場面でのeライブラリーの活用や調べ学習にタブレットを活用するなど、一人一人が進んで取り組むことができるICTを活用した授業づくりに取り組む。

4 まとめ

○全国学力・学習状況調査の結果からは、全校で取り組んでいる家庭学習の取組や算数の習熟度別少人数指導等の成果が着実に表れているので、継続していきます。

○今後とも学校と家庭とが連携して、子どもたちの基本的な生活習慣を確実に身に付けることが、子どもたちの学力向上に大きな影響があることを啓発していきます。